

翻訳にあたってのヒント

その2

2. カタカナ語と日本製漢語

昨今の広告やラジオ・テレビ番組には、カタカナ語が氾濫しております。国語審議会でも官庁のカタカナ語乱用を戒める意見が相次いでいます。さらに最近では市町村職員のためのカタカナ用語辞典が出版されているほどです。中でも、三万語以上も収録する外来語辞典があり、その中では英語が八割を占めているそうです。また略語の数もかなりの数にのぼっております。私も時代の流れに合わせて、カタカナ語辞書を二冊、略語辞書を5冊所有して、翻訳をしております。そうしなければ正確な翻訳ができないからです。これは、未だに見られる日本人の舶来品好み、その新鮮な響き、生活感が感じられない目新しさや語感、そして日本語にしづらいということ、外国語を日本語に取り入れようとする旺盛な吸収心に端を発しているように見受けられます。カタカナ語は、名詞や日本語にとけ込みやすい言葉であれば分かりやすく、日本語で言い表すよりも便利だという場合がありますが、抽象的な言葉で日本語になりにくいからという理由で安易にカタカナ語にされているものの中には、はなはだ疑問に思えるものがあります。例えば、コンセプト、インフォームド・コンセント、トレンド、パラダイム、エコロジー、アイデンティティー、プレッシャーといった言葉等があります。コンセプトが「概念・発想・考え方」、インフォームド・コンセントが「十分な説明と同意」、エコロジーが「生活（自然）環境」、トレンドが「傾向や流れ」、そしてプレッシャーが「重圧」というちゃんとした日本語で表記でき、パラダイムが「理論的枠組み」や「模範・例」（私のメモには、「ある時代に支配的な見方・考え方」、「新しい世界観に基づく新しい行動パターン」、「まったく新しいものの見方のための枠組み」とあります）、アイデンティティー（これはちょっと複雑になりますが）が文脈によって、「素性」、「自我（己）」、「ルーツ」、「自分が自分であることの根拠」、「（人の）身元」、「（物の）正体」、「独自性」、「主体性」、「自我（自己）同一性」というふうに、文脈に応じていろいろ訳し分けられるのではないのでしょうか。特に、最近のカタカナ語を連発する俗に言う業界人の方々の日本語には、しばし閉口してしまいます。彼らなりに、時代の先端を行っているナウいことを表現したいがために、カタカナ語を使っているのですが、本当に意味が分かった上で言葉を使っているのだろうかと思われることが往々にしてあるため、時には知的というより、軽薄に感じられる時があります。例えば、コンセプトという言葉を使っている人が、その意味は何だと尋ねられ、概念だと答え、それでは概念とは何だと説明してくれと言われて、答えられないとすれば、その人はコンセプトという言葉を使う前に、国語辞書で「概念」という言葉を調べることが先決問題でしょう。また、最近ではあのデリケートな言葉である **sexy** に対して、「人目を引く」、「最新の」、「大いに興味をそそられる（呼んでいる）」、「目玉になる」といった新定義が付けられています（英語で

のおおざっぱな定義は、attractive, enjoyable, fashionable or trendy, and therefore desirable となっております)。この意味で使われている場合にはくれぐれも「セクシーな」などという訳語を使わないようにしましょう。そこで、言葉と日夜格闘している翻訳者たる者は、なるべくカタカナ表記を避け、適切な日本語訳を考え出し創出していくという、ある種の使命を担っている職業人であると考えます。例えば、福沢諭吉や森鷗外らの数多くの学者や作者が知恵を絞って考え出した漢語訳に感嘆する人は私だけではないでしょう。そしてその中には中国へ逆輸入されているものもあるほどです。以下にそれらの漢語を羅列してみます。

哲学（フィロソフィー）、経済（エコノミー／経世〔経国〕済民を略したもの）、化学（ケミストリー）、そして意識と音訳を兼ねた苦心の作である簿記（ブック・キーピング）、倶楽部（クラブ）、型録（カタログ）等。

その他の日本製漢語：

電話、電信、電報、郵便、鉄道、工業、商業、銀行、保険、警察、演説、討論、主義、情報、象徴、科学、医学、美学、美術、止揚（ドイツ語のAufheben [Aufheben] の訳語／物事の矛盾や対立を、相互の否定の上により高次の段階で統一すること）

心理学、論理学、倫理学、物理学、地理学、天文学、主観、客観、現象、観察、実験

社会、文学、文化、文明、教育、芸術、思想、自由、精神、生産、交通、進歩、流行、革命

<注> 中国の古典語に新しい意味を与えたものを含む。

こうして見てみますと、どれも現代日本語で普通に使われている言葉ばかりです。それまでになかった言葉を、日本国民全体からすればほんの一部の日本人が訳出し、日本語に浸透させた才覚には感謝してもしきれないものがあります。ですから、私には、日本人の非常に優秀な翻訳者が数名でも結託したら、最近使われている訳の分からないカタカナ語を素晴らしい日本語に創り変えてくれるだろうという期待があります。また、私にできることが些細なこと（できるだけ努力はいたしますが）だとしても、翻訳をこなして行く上で自分なりに創意工夫していく努力を惜しまないという気持ちで仕事に取り組んでおります。こんなところにも、翻訳者たらんとする役割が潜んでいるように思えてなりませんし、翻訳の醍醐味が見え隠れしております。

蛇 足 ～ コンピュータ業界で使われている難解なカタカナ語や略語の私なりの処理法；

下記のように、まずカタカナ語を先に表記してその後に括弧で囲って簡単な日本語訳を付けます。

アーキテクチャ (設計・思想／コンピュータ設計の方針あるいはその構成／基本設計)

オーサリング (ソフト開発支援／ソフト制作／対話型アプリケーションの開発・作成・制作)

アベイラビリティ (可用性／稼働性)

コネクティビティ (異機種間の接続しやすさ)

コンフォーミティ (親和性)

クロスヘア (十字照準線)

CT (コンピュータ断層像撮影装置／コンピュータを使った画像診断装置)

サイバースペース (電腦空間)

サイバネティックス (人口頭脳研究)

カスタマイズ (仕様調整) する

カスタマイゼーション (運用形態に合わせた特注化)

デフォルト (初期設定 [値])

デリミタ (区切り文字)

デザイン・イン (システム設計段階からの共同開発 [開発参加])

DTP (コンピュータを使った編集・製版・印刷／机上編集／コンピュータによる編集・印刷)

エレクトリック・コマース (電子商取引)

エディタ (文書編集ツール)

エモチコン (感情表示アイコン)

フォールト・トレラント (耐故障性／耐障害性) コンピュータ

FAQ (よく聞かれる質問／質問コーナー)

— 中略 —

ログ (更新履歴) ファイル

ループ (条件が満たされるまで繰り返される一連の命令)

メインフレーム (汎用大型コンピュータ)

モジュール (部品単位)

モジュール (部分化) する

ネチケット (ネットワーク使用上のエチケット)

オープン化 (異機種間の相互接続化)

アウトソーシング (業務の外部委託)

パケット (情報伝達単位)

パスワード (入力専用暗証番号／暗証)

プラットフォーム (ハード基盤／ソフト基盤)

プロバイダー (インターネットの接続業者)

リセール（小口再販）
ルーター（LAN間接続装置）
シームレスな（切れ目の無い／継ぎ目の無い）
セキュリティ（安全保証／機密保全性／安全性／守秘性／安全保護／データを改ざんや漏えいから守ること）
スマート・カード（半導体チップを内蔵したカード）
テレコミュニケーション（コンピュータを使った在宅勤務）
テキスト（文書データ）
ティア（CATVでのケーブル網 [東]）
ビデオ・オン・デマンド（好きな時に好きな番組を家庭で楽しめるサービス）
ワイルドカード（中間一致検索）
ワークフロー（オフィス業務情報の共有とその流れの管理）他多数。

このようなカタカナに日本語による概説を併記した訳出法は、どうしてもカタカナを使わなければならない場合に効果的な訳出法ですので、コンピュータの翻訳に限らず、あらゆる分野の翻訳で活用できる方法です。

例えば、こんな文例があります。

One basis of a family is communication among its members.

（ファミリーのベースのひとつとはそのメンバー間のコミュニケーションである。）

この文では、「てにをは」だけが日本語として生きているといっても過言ではありません。そして、このような文章が翻訳文として通用するのであったら、翻訳者としての存在価値がなくなってしまうでしょう。英語の安直なカタカナ化は非常に意味をぼやけたものにすると同時に、翻訳者としての実力を疑われかねない危険な処理だと考えます。また、先の方法に加え、小説に見られるようにカタカナ語に漢字でルビをふるというのも有効手段だと思います。